

知的障害者のオンデマンド型オンライン学習の 指導・支援方法に関する研究

Key word : 知的障害 オンデマンド型オンライン 指導・支援方法

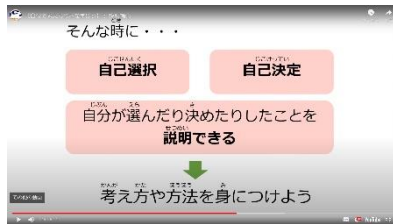
目的

2020(令和2)年より新型コロナウイルス感染症は教育に甚大な影響を与えている。影響の一つに三密回避を目的としたオンライン学習が挙げられ、学校教育や社会教育において実施されている。知的障害者への学習支援に関する研究は、これまで対面授業、講義を主としてきたため、オンライン学習における知的障害者に対する指導・支援方法の特徴はほとんど明らかにされていない。コロナ禍における知的障害者の学習の保障を検討する上でも、オンライン学習における指導・支援方法の特徴を明らかにしていくことが必要である。

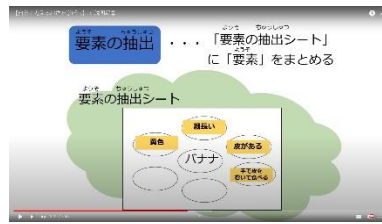
本研究では、動画教材の作成・提供を通して、知的障害者のオンデマンド型オンライン学習の指導・支援方法の特徴を明らかにすることを目的とする。また、動画を視聴した対象者に対してアンケート調査を実施し、動画の効果を検証する。動画教材の題材は、2003年の支援費制度導入以降の成人期知的障害者への支援のキーワードとされている「自己決定」に関するものとし、詳細な題材については、申請者がこれまで研究している成人期知的障害者の自己決定の実態等を踏まえて検討していく。

動画の作成

- 1.動画の内容**：2つの動画を作成した。題材は、動画1は「自己決定の大切さ」、動画2は自己決定のプロセスとして「要素の抽出、要素の整理を知ろう」であった。自己決定のプロセスについては今枝（2020）等を参考にした。動画1は8分13秒、動画2は7分49秒であった。
- 2.作成者**：研究代表者と特別支援学校教員1名であった。特別支援学校教員は15年以上、特別支援学校で勤務しており、成人期知的障害者の生涯学習支援の取組であるオープンカレッジ東京で、これまで講師を10回以上務めた経験があった。
- 3.動画の公開方法**：動画はYouTubeのアップロードし、開設した専用のホームページ上で公開した。成人期知的障害者の60名にホームページ閲覧用のパスワードを郵送で配布し、動画を視聴、下記アンケートを回答してもらったよう依頼した。



動画1「自己決定の大切さ」



動画2「要素の抽出等を知ろう」

動画作成時のポイント＝指導・支援方法のポイント

- 目標の明確化：動画の最初に提示
 - 学習プロセスの視覚化：目標達成に向けて、スモールステップで提示
 - 日常生活の課題（映画の選択、職業の選択など）を題材とする
- 知的障害者の障害特性に合わせた指導・支援方法

参考文献：今枝（2020）：成人期知的障害者の自己決定に関わる選択行為遂行の特徴。大阪教育大学紀要 総合教育科学，68，39-52。

アンケートの実施と結果

- 1.分析対象者**：動画を視聴し、アンケートに回答した成人期知的障害者10名であった。
- 2.調査項目**：共通質問項目として、動画を用いた学習に関する質問を5項目問うた。5項目は①動画の再生環境、②動画の再生方法、③動画再生時のトラブルの有無、④動画を見ての感想、⑤対面講座と動画による講座の受講希望であった。動画ごとの質問として、動画1は①内容のわかりやすさ、②自己決定することの大切さの理解、③動画の時間、④動画の説明スピード、⑤動画の良いところ（自由記述）、⑥動画の不明点（自由記述）の6項目、動画2は①内容のわかりやすさ、②要素の抽出の理解、③要素の整理の理解、④動画の時間、⑤動画の説明スピード、⑥動画の良いところ（自由記述）、⑦動画の不明点（自由記述）の7項目であった。それぞれ「とてもわかりやすい」などの選択肢を有していた。
- 3.手続き**：項目ごとに選択肢ごとの人数を算出した。なお、動画1の質問に回答したのは10名、動画2は7名であった。
- 4.主な結果**：共通質問項目は10名の回答があり、スマートフォンで再生したのは9名、パソコンが1名であった。一人で再生したのは7名、家族と一緒に再生したのは3名であった。対面講座の受講希望は5名、動画による講座の受講希望は2名、どちらも受講したいは2名であった。動画1の質問項目について、内容が簡単と回答したのは5名、どちらでもない3名、難しい2名であった。動画の時間が長く、説明スピードが速いと回答したのは1名で、内容が難しいと回答した者だった。動画2の質問項目について、内容が簡単と回答したのは5名、どちらでもない1名、難しい1名であった。要素の抽出、要素の整理については、全員わかりやすかったと回答したものの、動画の時間が長く、説明スピードが速いと回答したのは4名であった。

考察

知的障害者の障害特性に合わせた指導方法に基づく動画の作成
「目標の明確化」「学習プロセスの視覚化」「日常生活課題が題材」



- 視聴した知的障害者はアンケートで「わかりやすい」という回答が多かったものの、全体の再生数にはつながらなかった。
- 動画の時間が長い、説明スピードが速いという意見が動画によっては過半数を超えており、動画の改善が必要

今後の課題

今後の課題として、①動画作成における時間や説明スピード等の改善、②動画作成より得られた知的障害者への指導・支援方法を、対面での講座実施に生かし、知的障害者の遂行状況の評価を行うこと、の2点が必要である。